

平成24年7月27日

雲南市議会議員 深田 徳夫 様

産業建設常任委員会
委員長 山崎 正幸

産業建設常任委員会視察研修報告

下記のとおり視察を行いましたので、その結果を報告します。

記

- 1 視察研修先 ①江津市
②浜田三隅道路
③津和野町
④邑南町
⑤赤名水力発電所
- 2 視察研修日 平成24年7月12日（木）～13日（金）
- 3 視察研修参加者 別紙のとおり
- 4 視察内容・目的
 - ①江津市
木質バイオマスチップボイラー稼働状況及び効果の検証
・・・雲南市が実施する森林バイオマス事業の効果と課題を把握する
 - ②浜田三隅道路
高速道路建設現場視察
・・・高速道路建設の進捗状況と高速道路開通後における旧国道沿線のまちづくりを考察する。
 - ③津和野町
森林バイオマス事業の展開、地域通貨の効果
・・・森林バイオマス事業の効果と課題を把握する。また地域通貨の活用状況についても聞き取りを行う。
 - ④邑南町
産直市、ネット通販、A級グルメのまちづくり
・・・邑南町の食を通じたまちづくりの手法を学ぶ。
 - ⑤赤名水力発電所
水力発電事業の現状
・・・水力発電の現状、課題を把握し雲南市の水力発電事業に活かす

6 研修まとめ

①江津市

チップボイラーの稼動状況

平成21年度にチップボイラーを3,800万円で導入し、木質バイオマス事業を実施されている。

石州瓦の産地として有名な江津市は、粘土を1200度以上の高温で焼成する技術を有している。その焼成する技術を活かしてボイラー製造を地元企業に製造を委託されており、輸入物に比べ安価で製造ができた。また地元企業のためメンテナンス体制も整っている。

チップボイラーは桜江町「風の国」の温泉加温装置として導入されている。化石燃料に比べ排出するCO₂の量を大きく抑制するとともに、高騰傾向にある化石燃料に比べて安価な燃料を安定的に調達することができたということである。

また、当初のボイラー製造のほかメンテナンスやチップ供給会社等、地域内の関連産業が関わっており、産業の活性化が期待されている。

課題は、水分保有率の低いチップの確保。またチップの大きさが不揃いはボイラーの取り込み口が目詰まりしやすいため大きさの揃ったチップが必要となる。



↑ ボイラー導入企業（森下建設）より説明を受ける。

チップボイラー（森下建設製造）→



②浜田三隅道路

高速道路建設現場視察

国道9号浜田市原井町～浜田市三隅町間は急勾配が多くカーブが連続し大変危険であり、緊急時の代替ルートを確保するため平行する道路の建設が急がれている。

一方で完成後は旧国道9号の交通量が減少することから商店等への客の減が懸念される。今回は国土交通省だけの対応だったため交通量減少への対策については聞くことが出来なかった。



③津和野町

森林バイオマス事業の展開、地域通貨の効果

平成22年度に建設工事費7,870万円をかけ実施されている。森林面積が90.2%を占める一方、間伐材の手入れ不足で荒廃しつつある森林を整備推進を図るため地域通貨という不可価値をつけたバイオマス事業を展開されている。

間伐材の出荷金額1トン当たり3千円に地域通貨3千円を上乗せし、町内で使用してもらおう「山の宝でもう一杯プロジェクト」を実施されている。参加者の約8割は60歳以上であり50歳代以下の参加者増が課題とされている。

地域通貨は、町が商工会に委託して発行し、商店、コンビニ、スーパー、ガソリンスタンド、旅館などでの支払いにも使えるがガソリンスタンドでの使用が6割を超え、町内全体の商店での使用という当初の目的には至っていない。



バイオマス事業について
説明を受ける



チップボイラー
(オーストリア製)

④邑南町

産直市、ネット通販、A級グルメのまちづくり

石見和牛、酪農、チョウザメ養殖業者、ピオーネ、さくらんぼ、ブルーベリー農家など小規模ながらも特色のある生産者が点在している。これら農林業の資源を活用し、産業振興を図ることを目的に、産学官連携によって平成22年度に全国初となる「邑南町農林商工等連携ビジョン」を策定し、「A級グルメ立町」の実現を図られている。

A級グルメの核となる「素材香房味蔵」はシェフやスタッフを公募。いずれも県外からの採用で3年間の研修を経て地元での起業を期待されている。



↑ A級グルメの拠点となる「素材香房味蔵」

← 邑南町役場での研修

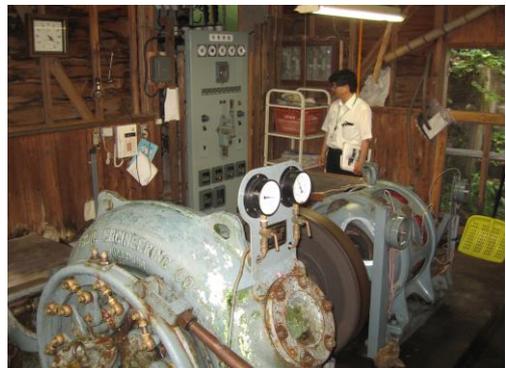
⑤赤名水力発電所

水力発電事業の現状と今後の課題

昭和32年2月完成後、江の川水系塩谷川からの取水により運用。平成23年度の実績では634,760kwh。売電価格は約600万円だが、人件費、維持管理費を差し引くとほぼ利益は残らない。売電価格の値上げを国に要望している。

大雨による土砂の流入時など、災害時にはJA雲南職員自ら土砂の搬出作業や水門の開閉をするなどの労力がある。

雲南市にも吉田町田井に同様の発電所があるが、状況は同じく人件費や維持管理費がかかり黒字もわずかである。



小水力発電所外観

発電機